

8732

マネーパートナーズ グループ



株式会社フィスコ
コンサルティング事業本部長
中村孝也

FXのパイオニアであり、FX事業を発祥としている会社として初の東証1部上場企業を果たした。

2014年3月期の第2四半期（4-9月期）は、相場全体の変動率が4-6月に大きくなったことで大幅増益（黒字転換）を達成している。また、取引を生み出す源泉の預かり証拠金は順調に拡大しており、ホワイトラベル（大口金融法人顧客に対する外国為替証拠金取引システム）提供終了で関連固定費が減少している。その他の費用削減も順調で、相場の低迷にも耐えうる体質になっている。更に、同社はできるだけスプレッドを小さくする（顧客の費用を軽減する）一方で、外部カバーを適切に行う（リスクを減らす）ノウハウのシステム化（カバー取引手法の継続的な改善）も進めており、長い目で見た収益力の向上が期待できる。

FX取引の将来性も高いと考えている。現状、FX取引市場の口座数は約420万件である。外国為替の利用者からの視点で考えると、海外旅行者数（年間）は1,849万人（2012年）、有効旅券（パスポート）数は3,030万人に上る。また、投資商品としての視点から見ると、証券口座（法人含む）は2,173万口座（2013年6月現在）となっており、この点からも将来的には2,000万口座の可能性はあり得る。

同社は東証1部上場企業という信用力に加え、主要な4国際空港で外貨両替、受取りサービスが可能な同社だけのサービスも展開しており、幅広い実需の取り込みも可能であろう。

会社概要 (2013年9月30日現在)

商号	株式会社マネーパートナーズグループ
URL	http://www.moneypartners-group.co.jp/
所在地	東京都港区六本木一丁目6番1号
代表取締役	代表取締役社長 奥山 泰全
設立	2005年6月10日
資本金	1,792百万円
従業員数	14名（連結：105名）
関係会社	株式会社マネーパートナーズ 株式会社マネーパートナーズソリューションズ
事業内容	持株会社としてグループ各社の株式を保有することにより、当社グループ全体の経営戦略、経営管理機能を担っています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	3月31日
公告方法	その他基準日を定める場合は、あらかじめ公告します。 電子公告 http://www.moneypartners-group.co.jp/ ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（通話料無料）

特別口座の口座管理機関事務取扱所 みずほ証券株式会社及びみずほ信託銀行株式会社
(ご注意)
1. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、みずほ信託銀行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

配当について

当社は利益還元に関し、株主の皆様のご期待とご支援に一層応えてまいりたいとの考えから、継続的かつ適正な利益還元を経営の重要課題と位置付けております。具体的には、年間の配当性向の目処を連結当期純利益の30%とし、中間配当及び期末配当の年2回実施することとしております。

2014年3月期の中間配当につきましては、上記の方針に基づき、1株当たり300円（配当金の総額90百万円）とさせていただきます。

※当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。
なお、1株当たりの金額については、当該株式分割前の金額を記載しております。





株式会社
マネーパートナーズグループ
代表取締役社長
奥山 泰全

当社グループが目指すもの

DON'T STOP!

当社グループは「Don't Stop!」を社是とし、企業理念である「カスタマーファースト」「バリューアップ」「イノベーション」「コンプライアンス」の4つの基本コンセプトの実現に向けた取り組みを継続的に実行し、かつ「とめない、とまらない」ことを会社経営の基本方針としています。

株主の皆様へ

ご挨拶

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに当社グループの第10期事業年度の中間業績（2013年4月1日～2013年9月30日）の概況についてご報告申し上げます。

当社グループは、前中間期での赤字決算を踏まえ、前中間期のように外国為替相場が極端に低迷した場合でも、相応の利益を確保できるよう利益構造の改善に取り組んでおります。

前期において、利益構造改善のための主要なシステム投資を、約定取引系システムのリニューアル、顧客取引系システムの大幅強化という形で実施し終えたことを受けて、当中間期はこれらのシステム投資によるコスト低減のメリットを享受しつつ、主に安定的な収益を確保するための取り組みに注力してまいりました。

取り組みの一つの大きな柱は、前期にリニューアルした約定取引系システムによる収益性向上のための継続的な取り組みであり、またもう一つの柱は、競争が激化する業界内における、当社グループ独自のサービスをはじめとする差別化による競争力向上のための取り組みであります。

当中間期においては、これらの取り組みの成果に加え、前半の外国為

替相場の変動状況にも助けられ、経常利益、四半期（当期）純利益とも前期及び前々期の通期実績を超える水準を確保することができました。

引き続き株主の皆様には一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当第2四半期(累計)連結業績

■ 営業収益	2,749 百万円
■ 経常利益	624 百万円
■ 四半期純利益	366 百万円
■ 総資産	59,277 百万円
■ 純資産	10,082 百万円
■ 1株当たり 四半期純利益※	12 円 17 銭

※当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

上期のポイント

1 上期のボラティリティ(変動率)及び外国為替取引高の状況



2012年12月の政権交代以降、いわゆる「アベノミクス」効果により、外国為替相場は急激な円安トレンドに転換しました。上期の外国為替相場のボラティリティは、この流れを受けて高い水準で始まりましたが、その後6月に入ると、相場の方向感が不透明になったことからボラティリティは右肩下がりに低下し、上期末を向かえております。また、外国為替取引高は、概ねボラティリティに連動して推移しております。

2 収益性の改善



当社グループの収益の大半を占めるトレーディング損益は、お客様からの外国為替証拠金取引とこれをヘッジ(カバー)する取引の価格差により得られます。このカバー取引を、リスクコントロールと収益極大化の点で高い水準で両立させるため、カバーアルゴリズムの改良等手法の改善に継続的に取り組んでおり、収益性の向上効果が現れつつあります。

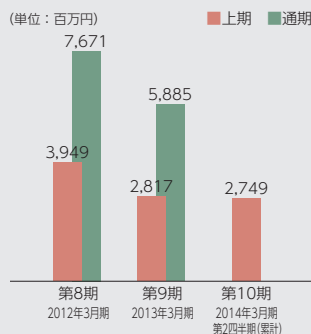
3 コスト削減効果



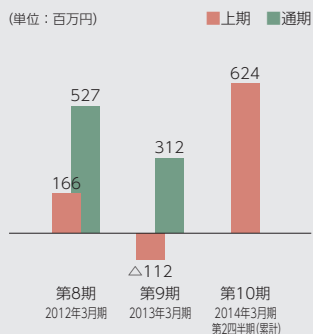
2013年2月に顧客取引系システムの大幅強化を実施いたしました。この中で、データベースサーバのダウンサイジングを実施しており、2013年3月の大口金融法人とのホワイトラベル契約終了に伴う余剰システムの廃止が可能となったことから、2013年4月以降のシステム保守・運用に係るコストを大きく削減することができました。

財務ハイライト

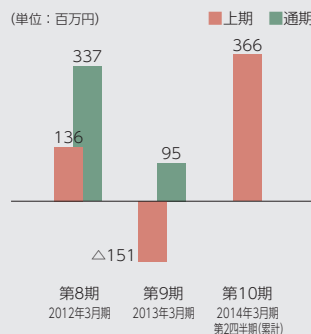
営業収益 ※1



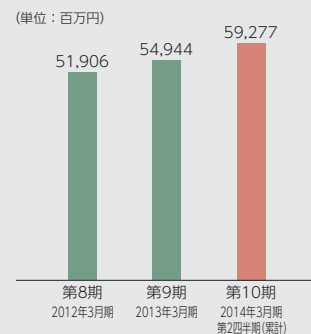
経常利益



四半期(当期)純利益



総資産



※1 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

※2 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。第8期連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失を算定しております。

〈上期の取り組み〉

7/22・7/30 『HyperSpeed Touch nano』公開!

「パートナーズFXnano(ナノ)」対応のスマートフォン用FX取引アプリ「HyperSpeed Touch nano」Android版(7/22)とiOS版(7/30)の公開が開始されました。

7/6 「外貨両替・受取サービス」の受取拠点追加!(羽田)

2011年3月、成田空港にて開始し、翌年に関西国際空港でも受取可能となった「外貨両替・受取サービス」の受取拠点として、羽田空港が追加されました。

7/27 「外貨両替・受取サービス」の受取拠点追加!(セントレア)

羽田空港に続き、「外貨両替・受取サービス」の受取拠点として、中部国際空港(愛称:セントレア)が追加されました。

5/28 東京証券取引所
市場第一部銘柄に指定

2012年5月にFX専業もしくはFXを主力業務とする証券会社として東京証券取引所市場第二部に初の上場を果たし、2013年5月に市場第一部銘柄に指定されました。

6/24 100円からの本格FX
「パートナーズFXnano(ナノ)」がリニューアル

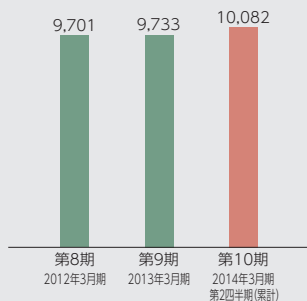
「パートナーズFXnano(ナノ)」が、パソコン取引ツール「クイック発注ボード」で対応できるようになりました。

6/28 「パートナーズFXnano(ナノ)」の
1回の最大発注数量が10万通貨に拡大!

1回当たりの最大発注数量が従来の1万通貨から10万通貨へ変更になりました。また、1日当たりの取引数量上限(新規)も2,000万通貨まで拡大しました。

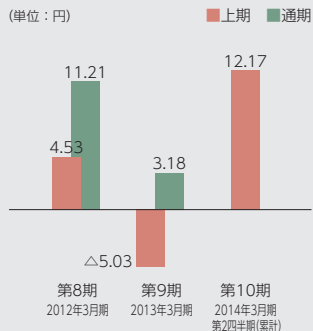
純資産

(単位:百万円)



1株当たり四半期(当期)純利益 ※2

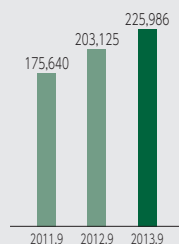
(単位:円)



事業データ

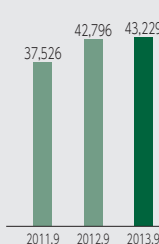
顧客口座数

(単位:口座)



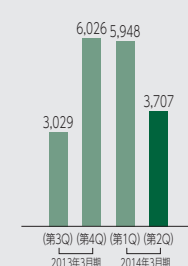
顧客預り証拠金

(単位:百万円)



外国為替取引高

(単位:億通貨単位)



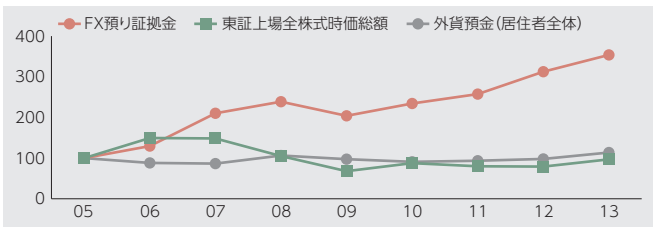
(注) 顧客口座数、顧客預り証拠金・・・各第2四半期末時点の口座数、預り証拠金残高
外国為替取引高・・・各四半期毎の3ヶ月間の取引高
なお、それぞれの計数には、2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めて表示しております。

外国為替証拠金取引（FX取引）の可能性

1998年に外為法の改正による外国為替取引が完全自由化されたことをきっかけにFX取引は生まれました。以降、FX取引は、金融先物取引法、金融商品取引法と法規制が整備される過程で裾野を広げ、近年では取引高、預り証拠金が他の金融商品を大きく上回る成長率を見せるなど金融商品としてのプレゼンスを高めています。

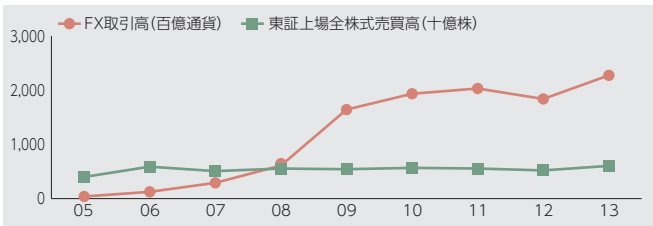
一方、FX取引は、差金決済が可能なデリバティブ取引であるものの、その本質はFoegin eXchange、外国為替取引です。身近な外国為替取引として、海外出張や海外旅行の際の外貨両替や海外への送金を利用される方は多いと思われるのですが、例えば、外貨両替等の外貨取引を利用していると思われる海外旅行者数は年間1,849万人に上ります。当社グループは、このような外国為替の実需取引を行う方々を潜在顧客層と捉え、デリバティブ取引としてのFX取引のみならず、広く実需に対応した外国為替関連サービスを提供してまいりたいと考えております。

FX預り証拠金の推移



※2005年3月の数値を100として算出

FX取引高の推移



日本人海外旅行者数

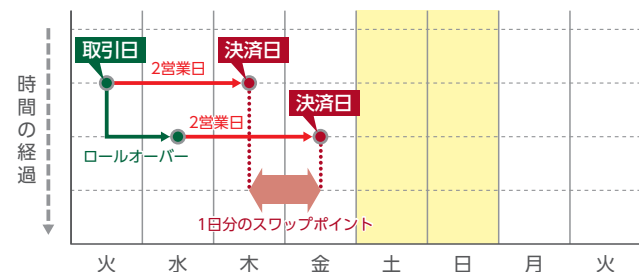
2012年は1,849万人！

FXとは（スワップについて）

FXでは、保有している建玉（ポジション）を解消せずに、買い持ち（売り持ち）の状態を続けると、1日ごとに金利相当額の受渡しが発生します。

この金利相当額のことを「スワップポイント」といいます。

これは、FXが通貨の交換取引であり、本来2営業日後に通貨の交換（決済）を行うところ、ポジションを反対売買により解消しない場合、自動的に決済を翌営業日に繰り延べる（ロールオーバー）と共に、金利の異なる交換対象通貨の金利相当額を繰り延べ日数に応じて調整することに由来します。



例えば、豪ドル/円を100円で1万豪ドル買ったとすると、1万豪ドルの受け取りと100万円の支払いが繰り延べの対象となり、その分の金利相当額を調整することになります。

金利相当額は、FX業者が各通貨の市場金利を基に決定します。仮に、FX業者が上記の取引において、豪州の金利を年率3.0%、日本の金利を年率0.1%として金利相当額を決定する場合、元本金額に両通貨の金利差である3.0% - 0.1% = 2.9%を乗じて算出することになります。その結果、豪ドル/円の買いポジションから得られる1日当たりのスワップポイントは、元本金額100万円に年率2.9%を乗じた金額（29,000円）の1日分である80円となります。

1豪ドル=100円のとき1万豪ドルを購入すると



日本円を売って豪ドルを買うと



日本 最安

お得で便利！マネパの
外貨両替・受取サービス

※800通貨以上の場合。矢野経済研究所調べ。

なんと最大 **98%OFF** 両替手数料

利用者急増中！

成田・羽田・関空・セントレア
空港で外貨を受取れます！